焼肉ドラゴン

2011.2
再 演

小劇場

●前売開始：2010 年 12 月 12 日（日）

作・演出：鄭義信
翻　訳：川原賢柱
出　演：千葉哲也／粟田 麗／占部房子／若松 力／朴 勝哲／山田貴之／水野あや／
朱 源実／笑福亭銀瓶／申 哲振／朴 帥泳／金 文植／高 秀喜／朱 仁英

企画意図

2002 年東京・ソウル、05 年東京・全国・ソウルと上演された『その河をこえて、五月』に続き、08 年に開場 20 周年を迎えたソウル・芸術の殿堂との再コラボレーション作品として、『焼肉ドラゴン』は東京・ソウルで上演され、両国で毎回スタンディング・オベーションとなる熱狂的な反応で幕を閉じました。その年の演劇賞を総なめにした話題作を、11 年満を持して再演します。

『焼肉ドラゴン』受賞記録
（日本国内）
第 43 回紀伊國屋演劇賞　個人賞（鄭義信）
第　8 回朝日舞台芸術賞　グランプリ（『焼肉ドラゴン』）
第 12 回鶴屋南北戯曲賞（鄭義信『焼肉ドラゴン』）
第 16 回読売演劇大賞　大賞・最優秀作品賞（『焼肉ドラゴン』）
同　優秀男優賞（申哲振『焼肉ドラゴン』）
同　優秀女優賞（高秀喜『焼肉ドラゴン』）
同　優秀演出家賞（梁正雄・鄭義信『焼肉ドラゴン』）
第 59 回芸術選奨 文部科学大臣賞（鄭義信『焼肉ドラゴン』）
（韓国国内）
韓国演劇評論家協会の選ぶ 2008 年 今年の演劇ベスト3
韓国演劇協会が選ぶ　今年の演劇ベスト7

『焼肉ドラゴン』は、日本の焼肉屋を舞台に、ある在日コリアンの家族を通して、日韓の現在、過去、未来を、音楽入り芝居でおかしく、そして哀しく切なく描きました。鄭義信は初演時に、「小さな焼肉屋のおおきな歴史を描きたい」と言いました。まさに空港近くの土地に身を寄せ合って住む人たちのおおきな歴史は、きっとあの時代、あらゆる場所で起きていた普遍的な物語でもあります。
今回も初演と同じく、日韓両国の俳優・落語家・ミュージシャンのビビン（韓国語で混ぜるの意味）キャストで、焼肉屋「焼肉ドラゴン」は賑やかになることでしょう。

●料金　A：5,250 円・B：3,150 円

作　品

万国博覧会が催された 1970（昭和 45）年、関西地方都市。高度経済成長に浮かれる時代の片隅で、焼肉屋「焼肉ドラゴン」の赤提灯が今夜も灯る。

店主・金龍吉は、太平洋戦争で左腕を失ったが、それを苦にするふうでもなく、流れていく水のように、いつも自分の人生を淡々と受けとめてきた。

家族は、先妻との間にもうけた二人の娘と、後妻・英順とその連れ子、そして、英順との間にやっと授かった一人息子……ちょっとちぐはぐな家族と、滑稽な客たちで、今夜も「焼肉ドラゴン」は賑々しい。ささいなことで泣いたり、いがみあったり、笑いあったり……。

そんななか、「焼肉ドラゴン」にも、しだいに時代の波が押し寄せてきて……。

これは時代に翻弄されながらも、必死で生きる普遍的な家族の物語です。

2008年公演より

作・演出家からのメッセージ

鄭義信

『焼肉ドラゴン』の初演はお蔭様で日韓ともに暖かい拍手でもって、幕をおろすことができました。また思いもよらぬ多くの賞をいただいて、それを『焼肉ドラゴン』に関った日韓のスタッフ、キャスト、関係者とともに喜びを分かち合えたことは、幸福このうえないことでした。

これほどの反響が湧きあがったことに僕自身も驚きましたが、その再演ともなりますと、同じようにまた受け入れてくれるかどうか、前作以上の日韓の熱いタッグを見せることができるかどうか……等々、不安は大いに募ります。

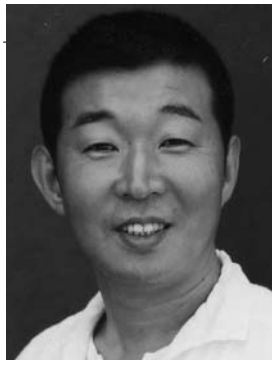
けれど、同時に、「焼肉ドラゴン」のあの家族たち、あの街に住む人たちに、ふたたび出会えることができる喜びにあふれております。

あの登場人物たちが舞台の上で再び輝き始める瞬間を、僕は観客の皆様とともに見つめていきたいと思っています。

焼肉ドラゴン

鄭義信

Chong Wishing



1993 年に『ザ・寺山』で第 38 回岸田國士戯曲賞を受賞。その一方、映画に進出して、同年『月はどっちに出ている』の脚本で、毎日映画コンクール脚本賞、キネマ旬報脚本賞などを受賞。98 年には、『愛を乞うひと』でキネマ旬報脚本賞、日本アカデミー賞最優秀脚本賞、第一回菊島隆三賞、アジア太平洋映画祭最優秀脚本賞など数々の賞を受賞した。さらに平成 13 年度芸術祭賞大賞受賞を受賞した『僕はあした十八になる』（2001/NHK）などテレビ・ラジオのシナリオでも活躍する一方、エッセイ集『アンドレアスの帽子』なども出版。

現在も、文学座、こんにゃく座ほかに戯曲を提供する傍ら、自身も作・演出を努めるユニット〈海のサーカス〉に参加している。2007 年 10 月には新国立劇場『たとえば野に咲く花のように ―アンドロマケ―』の脚本を手がけた。そして 08 年の新国立劇場『焼肉ドラゴン』では、第 16 回読売演劇大賞優秀演出家賞、第 12 回鶴屋南北戯曲賞、第 43 回紀伊國屋演劇賞、第 59 回芸術選奨文部科学大臣賞をそれぞれ受賞。10 年は初めて翻訳劇に取り組む、あうるすぽっと『Duet For One』がある。